

夏休み前集会で次のような話をしました（要旨です）

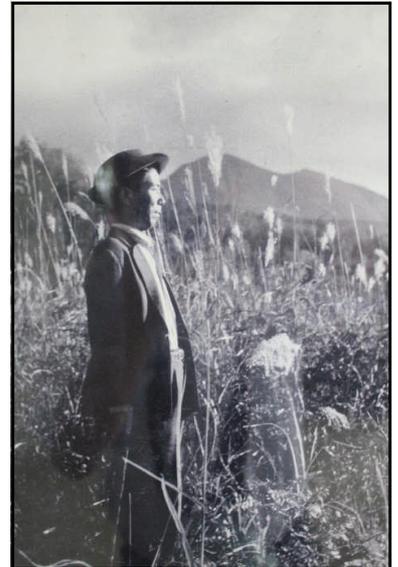
「文教の地」の伝統を、しっかり引き継いでほしい

本校学区は、「文教の地」と言われ、古くから、文学、芸術、学問と深い関わりをもってきた地域です。

このことは、角館高校校歌が、※1島木赤彦（しまき・あかひこ）氏、※2斎藤茂吉（さいとう・もきち）氏、角館中学校歌が、※3三好達治（みよし・たつじ）氏と、全国的に著名な方々が作詞されていることと、無関係ではないように感じます。

本校校歌の作詞者、三好達治氏には、全国から作詞の依頼がありましたが、「自分が将来悪いことをしてしまったら、校歌を歌っている生徒達に申し訳ない」という理由で断っていたそうです。それでも、最終的に作詞をしてくださったのは、お願いした地域の方々の熱意、地域文化の高さによるものだと思います。

角中生には、古い歴史と伝統ある「文教の地」で学校生活をおくっていることに誇りをもってほしいと思います。そして、日々の授業、家庭学習等にしっかりと取り組み、「文教の地」の確かな継承者になってください。今、本校の課題は、学力向上です。



三好達治氏（田沢湖高原にて）

- ※1 島木赤彦：1876年（明治 9）～1926年（大正15） 歌人（短歌） 長野県諏訪市出身
 - ※2 斎藤茂吉：1882年（明治15）～1953年（昭和28） 歌人（短歌）、精神科医 山形県上山市出身
 - ※3 三好達治：1900年（明治33）～1964年（昭和39） 詩人 大阪府大阪市出身
- ・三好達治氏は、昭和29年に角館にお出でになり、校歌のイメージづくりをしています。（写真）

「〇〇に生まれて、〇〇で育って、……」

【ふくしまからのメッセージ】

「福島に生まれて、
福島で育って、
福島で働いて、
福島で結婚して、
福島で子どもを産んで、
福島で子どもを育てて、
福島で孫を見て、
福島でひ孫を見て、
福島で最期を過ごす。」
それが私の夢なのです。

先月末、福島県で研修する機会がありました。

3年前の東日本大震災のより、福島県内では1814名の方々が亡くなりました。また、現在も、原子力発電所の放射能事故で、約13万人の方々が避難生活をされています。大震災以降、閉鎖されている学校もあり、復興までの道のりは遠いようです。

左のメッセージは、大震災から約5ヶ月後、福島県で開催された、全国高校総合文化祭（福島大会）の開会式で、女子高校生が発した地域を思いやる心の叫びです。簡単なメッセージですが、その重み、思いがひしひしと伝わってきます。

このような地域への思いは、私たちの心の中にもあると思います。『福島』を『自分たちが住んでいる地域』に置き換えて、一度読んでみてはいかがでしょうか。

栄光・栄誉

全日本吹奏楽コンクール第56回秋田県大会県南地区大会 銀賞 オーケストラ部

第60回 全日本中学校通信陸上競技大会 秋田県大会

男子2年 100m 第3位 赤上 洸 【 12" 24】

男子共通 3000m 第5位 太田光紀 【9' 32" 01】

低学年4×100mリレー 第5位 佐藤瑞輝 門脇直紀 茂木理久 赤上 洸 【49" 88】

第16回 シバングカップ実践空手道選手権大会 中学男子重量級の部 優勝 田川 礼 (大船渡市で開催)

「すすかけの道」を歌い継いでいきたい

先週の全校音楽で、生徒たちが歌う「すすかけの道」を聞きましたが、改めて良い歌だと感じました。この歌は、本校第1期生の故本田武久さん、第2期生のHa-jさんが、角館の情景を歌い込み制作して下さった角中生の心の歌です。大切に歌い継いでいきたいと思います。

正門から校舎までの、通路「すすかけの道」も、夏の装いになってきました。
さて、本校のすすかけの木（プラタナス）は、何本あると思いますか？



雪が解けて、春の芽吹きを待つすすかけの木



33本の「すすかけの木」も、夏の装いです

すすかけの道

作 詞 本田武久

作曲編曲 Ha-j

雪が解けて 芽吹く露のとう
春風に桜舞う ひのきない川
蛍が飛び交い かえるの鳴き声
夏の空 染め上げて 花火が散る

くじけそうになった時は
ふるさと支えてくれるね
大切なもの かけがえのないもの
気がついた今日からは
生きてゆける

山の息吹き おやま囃子
懐かしいかけ声に 少年に帰る

くじけそうになった時に
仲間が そこに居たから
夜は明ける 季節はめぐる
またあしたに向かって
生きてゆける

このうたと一緒に
生きていこう